

第6回 蓄電池産業戦略検討官民協議会 議事要旨

日時：2022年8月31日（水） 10時00分～11時45分

場所：第1特別会議室（経済産業省 本館17階）

※Teams会議によるオンラインと併用。

議事要旨

・「資料3 蓄電池産業戦略（案）」につき、事務局より説明

メンバーからの発言要旨は以下のとおり。

○この蓄電池産業戦略は即座に実行フェーズに移し、世の中に変化がある前に進めていくことが重要。変化に応じて定期的に見直しながら一体で進める枠組みも残し、時間軸が大事というところを意識して進めていただきたい。

○具体的に数値をパッケージで示したところが極めて大事。ただ、数値はチャレンジングなので官民一体で努力を要する。また、目標数値同士は現時点ではお互いに整合的と認識しているが、将来的に新しい技術導入や、外部環境の変化などがあれば必要に応じて見直しをお願いしたい。

○人材育成について、学生は魅力的な職場を探している。給与面も含めて魅力的かつ将来性のある産業を目指していただくよう民間の方々にはぜひお願いしたい。

○社会と同時に産業もサステナブルになっていかないと社会を良くしていくことができない。そのためには、参入企業が適切な利益を得られるようにすることが重要。末端の関係者まで適正な利益が出れば、それが適正報酬につながり、人材を引きつけることにもなる。価格と原価は別。原価を下げる努力はもちろん必要だが、赤字を出して売っていくことは産業として持続可能性がないので、相応しい価格をつけることも重要。

○カーボンニュートラル実現の鍵は電池。世界的に見ても定置産業分野でも市場が拡大することを実感。各個社はコスト含め熾烈な競争をしているが、技術、品質を武器にして、人材育成、サプライチェーン、コストを意識して一致団結できれば。時間軸を決めて具体的なアクションを産業界も起こしていき、蓄電池産業の発展に貢献していきたい。

○資源確保、リサイクルはカーボンニュートラル、資源循環社会を見据えた際の大きな課題。特にリサイクルは材料のリサイクル技術だけでなく、将来急速に増加する車載用電池の回収スキームなどの周辺環境の整備を先駆けて行うことが重要。最終取りまとめの結果を受けてこれら課題の解決の道筋が具体的に進んでいくことを期待して協力したい。